令和２年４月17日

メッセージ

三重中学校
校長　野田佳均

４月13日の三重中学校第59回入学式で、私は用意しておいた式辞を読み上げたのち、今回の社会的困難に対し正しく身を処するように注意喚起をするとともに、教育の持つ力について話しました。全く異例のことでしたが、新入生の皆さんはしっかりと聞いてくれたと信じています。あの時話した内容は、実は３月31日に生徒だけの出席で行った卒業式で話したこととほぼ同じです。また、２年生の出校日に最初の挨拶を頼まれて、そこでも話しています。ここに、改めて私のメッセージとして少し詳しく書いてみようと思います。

今回のコロナ禍は、私にとって、教師になって以来というより生まれて初めての経験です。３月２日以降、何度か自宅待機を経験しました。３密回避の行動をとりながら、そして書斎で本を読みながら、様々な事を考えました。最も時間をかけて考えたのは、学校のこと、君たちのこと、そして教育の問題です。教育の持つ力、教育の可能性、そういったことを考えていました。私は、いついかなる状態であっても、いつどんなことが起きたとしても、それがいいことでも悪いことでも、全ての出来事にはそれを通して学ぶべきこと、教育すべき何かがあると考えています。

今回のコロナ禍はまだ終息していませんが、すでに君たちは多くを学ぶことができたはずです。いい大人が浅はかな行動をとるニュースは嫌というほど観たでしょう。こういう社会的困難に直面すると、自分だけよければいいと考える行動が出てきます。マスクを買い占めネットで売った大人がいました。そういうことは恥ずべきことだと教えるのも教育です。トイレットペーパーがなくなるとデマを飛ばした人がいました。それを信じて買いだめをした大人も多くいました。匿名による誹謗中傷もありました。今もあります。どれも卑怯なふるまいです。とても知性のある人の行動とは言えません。

コロナ禍でなくても、これから先、君たちはまた別の社会的困難に遭うかもしれません。それを乗り越えるのは、私たち一人びとりの知性しかないと私は思います。科学者や政治家からの問題解決が求められるのは当然でしょうが、それだけでは困難を克服することはできません。私たちの知性ある行動が求められるのです。そしてその知性は、教育によって培われると信じています。だから君たちは学ばなければならないのです。

「教育を受けた者の行動」をEducated Actionと言います。教育を受けた者には、それにふさわしい行動が求められます。物事を冷静に分析し、取るべき行動の優先順位を正しくつけることができ、たとえ周囲に non-Educated Action をとる人がいたとしても、それに流されず自分の規範を守って行動できること、今はふざけていい場面かどうかを峻別すること、そういうことのできる大人にならなくてはいけません。私は君たちを信じ期待しています。

さて、家にいる時間が長くなります。静かな環境を作りなさい。先生方は君たちに課題を出しているでしょうが、それ以外に、孤独の時間を作ってたくさん本を読んで、じっくり考えなさい。どんなに稚拙でもいいから、考えたこと、本の感想、親御さんと話して感じたこと、ニュースを見て思ったこと、それらを言葉にして書き残しておきなさい。今日の自分はEducated Actionをとることができたか、そういう記録でも構わない。昔、私は恩師に「その気になったら、ちゃぶ台でだって勉強できるじゃないか」と言われました。忘れられない言葉です。不勉強を環境のせいにするなという意味です。今度は私から君たちにこの言葉を送ります。